

**特集** 米国リバサイド市 海外日本庭園修復 〔河北新報 2019年1月16日掲載〕

寒さ厳しき折、皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます。専務の齋藤靖士です。海外日本庭園修復の体験記を筆記します。

2019年、仙台市と国際姉妹都市の米国カルフォルニア州リバサイド市にある日本庭園『結心庭』の修復へ、私を含め県内の造園技術者4名で行って参りました。

『結心庭』(ゆいしんてい)は2007年にリバサイド市・仙台市交流50周年記念事業として作庭されましたが、12年経過し適正な維持管理が行われておらず修復、改修が必要な状況下にありました。

そんな折、国土交通省の海外日本庭園再生モデル事業に仙台市が応募し採択されます。海外の日本庭園は日本文化への関心を高めるきっかけの場となり、来日する動機を抱く高い効果があるそうです。このため日本庭園の修復体制の構築を図り、インバウンドの拡大や対日理解の促進、造園緑化技術の海外展開に貢献するプロジェクト事業概要になります。

さて、派遣要請を受けリバサイド市ボランティアの方と打合せし樹木や石材、道具を手配、2019年1月27日出陣です。リバサイド到着後直ぐに『結心庭』へ。

結心庭はホワイトパーク(15,000㎡)の中にある780㎡の日本庭園になります。石材採取場の調査や重機・道具の手配、ボランティアの方のお手伝い等を確認し、いざ作庭スタートです。

作庭は移植、石組み、飛石、灯籠、蹲踞・ししおどし設置、護岸州浜・乱杭、植栽等。ボランティアの方々が石についたモルタルを一つ一つ綺麗にし、景石や護岸の州浜として据え付けていく。砂利を敷くときはみんなでバケツリレー。飛石を運ぶ時の現地女性ボランティアのパワーは忘れられません。こうしてアメリカの地に日本庭園が造られていきます。リバサイドの気候は乾燥した夏と温暖な冬が特徴で1年を通じて雨の降る日が少ない。(Wikipediaより) 私たちの日頃の行いが良すぎるのか滞在中の3日は雨、日本では経験した事のない雷雨。現地調達したカッパはアメリカサイズのビックシュレット。異国の地の厳しい洗礼を受けますが、仕上げ作業や最終日には天気にも恵まれ、雨降って地固まるというように結心庭の景石や木々も青々と輝いていた事が思い出されます。

「井の中の蛙大海を知らず」との言葉があります。先代の親方から続きがあると教えてもらいました。「井の中の蛙大海を知らず、されど空の蒼さを知る」

井戸の中の蛙は広い海があることを知らないとネガティブな意味に思えますが、続きが加わることで狭い世界で自分の道を突き詰めたからこそ、その世界の深いところまで知ることができるとポジティブな意味になるだと思えます。造園の道に入りまだまだ修行中な身の私ですが、今回の経験で少し空の蒼さを知ることができたのかな。次の空の蒼さを知るためにこれからも歩いていきます。



**特集** グリーンゲート(展示場)リニューアルオープン



夏より着々と進めておりました、改修工事の第二弾(第一弾はガーデンテラス)が数種類の門塀アプローチ・石積み植栽等をリニューアルして1月にオープン致します。

ご自宅や店舗棟のお庭や外構の新築・改修をお考えの方々はぜひご覧下さい。

皆様のお越しをお待ちしております。

※コロナ感染予防の為、前日までに事務所にご連絡の上ご来場いただけますようお願い致します。

